

## 2019 年度 募集要項

### 「超創人財育成プログラム」

#### 【募集対象】

情報理工学研究科、スポーツ健康科学研究科、理工学研究科、  
生命科学研究科、経済学研究科、文学研究科、先端総合学術研究科、  
テクノロジー・マネジメント研究科、経営学研究科

#### 【応募期間】

・第2期: 12/10(月)～12/21(金)、2/25(月)～3/8(金)

#### 【【超創人財育成プログラム募集説明会（予定）】】

第5回 12/6(木) 12:20～12:50 BKC クリエーション コア 1F 101 教室  
OIC C棟 4F C471 セミナールーム  
衣笠 洋洋館 4F YY407 教室  
第6回 1/16(水) 12:20～12:50 BKC アドセミナリオ 3F A301 教室

問い合わせ先: 立命館大学大学院課 びわこ・くさつキャンパスアドセミナリオ 1F 大学院課  
窓口時間:    Tel:077-561-4941 Mail: ru-excel@st.ritsumeikan.ac.jp



## はじめに

立命館大学では、2019 年度より大学院横断プログラム「産学融合によりアクティブライフ社会を超創する人財育成」(以下、超創人財育成プログラム)を開設します。

我国は世界に先駆けて、少子高齢化、老老介護、生産人口の減少という社会的問題や、人生 100 年時代という前例のない長寿社会に直面しています。そのため、健康寿命を延ばし、年齢、性別、障がいの有無にかかわらずすべての人が生活の質を向上させ、豊かな人生を送ることができる社会 (=アクティブライフ社会) の創造が喫緊の課題です。これらの課題を解決するためには、それぞれの分野における高度な専門性の上に、アクティブライフ社会に関する専門性を備え、市場分析力や洞察力によって社会のニーズや動向を敏感に捉え、独創力や総合力により具体的なソリューションを実現する高度人材が必要となります。

現在、立命館大学は、持続可能な社会の実現のため、学部・研究科の枠を超えてグローバル・イノベーション研究機構を設立し、関連する研究を進めています。この度、この実績のもとに、健康や医療、社会動向を理解し、アクティブライフ社会の創出にかかわる新しい知識・技術・価値・スタイルの提案と事業化を図ることができる「アクティブライフ社会超創人財」を育成するプログラムを実施し、社会の要請に応える人材の輩出を目指すこととなりました。

本プログラムは、大学内の授業や研究に加え、実社会との連携を密に行う実習科目や学外教員による指導等により、各自の専門的な力の上に、「独創力」、「俯瞰力」を備え、未知なる課題に挑戦し、新たな価値を創造できる博士人材を育成します。

高度な専門性の上に、未来の社会を見据え、未知の課題に挑戦し、イノベーションを創出したいという意欲あふれるみなさん、ぜひ受講してください。

みなさんの力で、「アクティブライフ社会」を創りましょう。

## 1.プログラムの3ポリシー

### (1) アドミッションポリシー

以下の学生を受け入れる。

①アクティブライフ社会の実現を目指す新たな学術領域の開拓に関心を持っている、②学際的な広い視点に立って研究することの重要性を理解している、③グローバルに活躍する意欲を持っている。

### (2) ディプロマポリシー

アクティブライフ社会の創出にかかわる新しい知識・技術・価値・スタイルの提案と事業化を図ることができる人材を育成する。

### (3) カリキュラムポリシー

5 年一貫制 (博士課程前期課程 2 年間+後期課程 3 年間等) の教育課程において、①アクティブライフ研究領域 (ICT・健康関連分野) の理論と実践、②企業との連携教育による社会実装、実行力および問題解決力の獲得、③グローバルな視野の拡大や外国語運用能力の向上、④異分野・異世代と関わりを通じた、問題発見力、俯瞰力や柔軟性の獲得、ができるカリキュラムを編成し、目指すべき人材育成像を実現する。

本プログラムの受講生は、各自が所属する大学院研究科のカリキュラムを履修するとともに、本プログラムの設置科目を、5 年間で科目(合計 20 単位+講座)を履修する。加えて、学年の 2 年次、4 年次、5 年次の合計 3 回の Qualifying Examination (\*) を実施し、一定の評価基準を有する者を修了とする。

\* : プログラムの修了や奨学金受給の基準を確認する選考試験

修了分野によって身につく力の関係は、以下の表の通りです。

カリキュラム一覧		身につく力	
<b>①アクティブライフ研究領域</b> <b>6科目12単位選択必修(履修指定科目から4科目以上選択)</b> 【履修指定科目】 データサイエンス特論 ヘルスサイエンス データサイエンス特論演習 ヘルスサイエンス演習 データ計測とシミュレーション 健康デザイン論 データ計測とシミュレーション演習 健康デザイン演習 ヘルスケアシステム開発 健康ビジネス論 ヘルスケアシステム開発演習 健康ビジネス演習 AIと機械学習特論 ヘルス・プロモーションサイエンス AIと機械学習特論演習 ヘルス・プロモーションサイエンス演習 <b>他に選択科目14科目設置</b>		⇒	<b>研究の基礎的素養</b> <b>アクティブライフ</b> アクティブライフ社会の創出に資する専門性
<b>②異分野融合(講座)</b> <b>1科目1単位必修</b>	<b>③グローバル(講座)</b> 国際ワークショップ(講座) 短期海外留学Ⅰ(講座) 短期海外留学Ⅱ(講座)	⇒	<b>柔軟性</b> <b>発信力</b> 社会や時代の課題やニーズを理解
<b>④社会実装教育</b> <b>4科目8単位必修</b> エグゼクティブレクチャー 新事業開発 プロジェクトマネジメント 課題解決型長期実務実習		⇒	<b>考案</b> <b>計画</b> アクティブライフ社会の創出にかかわる新しい知識・技術・価値・スタイルの提案
<b>イノベティブ・アントレプレナー実習(講座)</b>		⇒	<b>実行</b> <b>実装</b> 未知なる課題に挑戦 新しい価値を創造 事業化

【開講科目】 ※修了に必要な単位数は「5. プログラム修了要件」参照

(1) **アクティブライフ研究領域**：アクティブライフ社会の創出に必要な、情報科学技術や健康・医療に関する基礎から応用までの幅広い科目を設置し、理論（講義科目）と実践（演習科目）の双方から学び、知識と実践力を養う。

(2) **異分野融合**：「異分野・異世代セミナー」（講座）では、他研究科院生や企業・団体、本学附属中・高等学校8校生徒、立命館OB/OGや地域住民等の異分野・異世代との議論を通して、アクティブライフ社会に関する課題を理解し、その解決策をプログラム受講生を中心に協議、検討する中で、様々な状況に対応できる教養力、異なる意見を融合し、イノベーションを生み出す素養を身につけることを目的とする。また、その成果は、年3回実施する「アクティブライフ文化超創コンソーシアム」企画（学生が企画・運営）の中で発表する。

(3) **グローバル**：多様な海外交流や留学等を通じて、異文化を理解するとともに、自身の研究をグローバルな視点から考えることができる力を養う。グローバル分野では、以下の3講座を設置する。

①「**国際ワークショップ**」（講座）：国際連携している大連理工大学、インド工科大学、コペンハーゲン大学などの大学院生や立命館アジア太平洋大学在籍の留学生とともに、アクティブライフ領域の国際的課題や研究に関する「国際ワークショップ」を行う。また、その成果は年1回実施する国際シンポジウムの中で発表し、外国語運用能力・異文化理解の素養を身につける。

②「**短期海外留学Ⅰ（グローバル・ディスカバリー）**」（講座）：「世界の課題を深める」をテーマに、医療・健康格差のある国々や最先端技術を導入している国々の企業や研究機関を視察・研修を実施する。

③「**短期海外留学Ⅱ（国際論文投稿・学会発表スキル）**」（講座）：「世界に発信する」をテーマに、英語論文作成・国際学会発表の力量についてブラッシュアップを図り、国際的な情報収集力と発信力を養う。

- (4) **社会実装教育**：問題発見・提起・解決力を養成するテクノロジー・マネジメントの理論と実践を企業や医療・行政・研究機関から招聘した学外教員とともに授業展開する。最先端の研究のための知識や技術の習得だけでなく、俯瞰力・独創力を有し、チームで多様な価値・システムを創造できる素養を有することが重要である。社会実装教育科目では、以下の4科目、1講座を設置する。※主に土曜日に実施予定
- ①「**エグゼクティブレクチャー**」：経営層からの社会実装課題（成功・失敗談、経営のコツ等）を学ぶ。
  - ②「**プロジェクトマネジメント**」：現場からの社会実装課題の解決策をグループで検討・提示する。
  - ③「**新事業開発**」：いかに組織を運営し、新たな事業を企画・実装していくかのプロセスの理論を学び、グループ内や学外教員との議論を通じ、課題解決・新事業を創出・企画する手法を身につける。
  - ④「**課題解決型長期実務実習**」：国内外のアクティブライフに関わる企業、医療・行政機関を対象に現場体験・観察等により、企業の潜在的な課題の探索や課題解決に向けての戦略を学び、①から③で身に付けた力を活かして、PBL方式により、課題探索・戦略立案力を養う。
  - ⑤「**イノベティブ・アントレプレナー実習（講座）**」：プログラム生がチームで模擬会社を設立し、異なる技術や知識の専門性を持ち寄り、会社の方向性や企画を立案、国内外の企業や医療・行政・研究機関を対象にアプローチし、課題発見から解決策までの運営を行う長期実習を実施する。学生は各自役割を担い、企画、課題探索、解決の提示・検証までの運営を行う。運営資金は、模擬会社からのアイデアと計画、予想される成果を大学が評価して、必要経費を査定する。学生は、各自の専門性と本プログラムを通じて獲得した理論と実践力を応用し、開発・提案といった成果を出す経験を通して、アクティブライフ社会を創造することができる力を養う。

## 2. プログラム修了要件

5年間の学修を経て、プログラムを修了するために必要な単位数は以下のとおりです。加えて、以下のQualifying Examination 基準を満たす必要があります。

プログラムを修了した場合は、学位記に「**産学融合によりアクティブライフ社会を超創する人財育成**」プログラム修了」と付記します。

(各自が所属する研究科の博士課程前期課程と後期課程を修了しなければ、本プログラムを修了することはできません。)

修了分野		修了要件	必要単位数 合計
アクティブライフ研究領域		6科目 12単位選択必修 (履修指定科目から4科目以上選択すること)	20単位+講座修了
社会実装教育			
社会実装教育(イノベティブアントレプレナー実習)		必修	
異分野・異世代融合			
グローバル	国際ワークショップ		
	短期海外留学Ⅰ・Ⅱ	1講座 選択必修	

### 〔Qualifying Examination (QE) 基準〕

本プログラム修了要件・奨学金受給基準として、5年一貫教育の中で、3回のQEを実施します。

QEは、審査員6名（指導教員、学外メンター教員、研究科コーディネーター教員、異分野（他研究科）教員と異分野の学外メンター教員、海外からの招聘教員）が審査します。

第1QE（2年次（前期課程2回生）秋学期）と第2QE（4年次（後期課程2回生）秋学期）の評価によっ

て奨学金額の見直しを行います。また、第3 QE (5年次(後期課程3回生)秋学期)は、自身の所属研究科の学位審査の前に実施します。

各 QE の審査基準は以下の通りです。

**第1 QE (2年次秋学期)** : ①社会実装科目の累積 GPA3.5 以上、②TOEIC®Listening&Reading Test 600 点相当、③研究成果と社会還元に関する発表・質疑応答(日本語)、④今後の研究計画と到達目標

**第2 QE (4年次秋学期)** : ①社会実装科目の累積 GPA3.5 以上、②TOEIC®Listening&Reading Test 730 点相当、③研究成果と社会還元に関する発表・質疑応答(英語)、④学位論文の見通しとキャリア目標

**第3 QE (5年次秋学期)** : ①社会実装科目の累積 GPA3.5 以上、②イノベティブ・アントレプレナー実習の課題設定・解決策立案および成果、③5年間で国際学会2回の発表(査読付き)と、国際論文の掲載1報(査読付き)もしくはそれに準ずる成果(表彰・受賞、特許出願など)、④通算5週間以上の海外滞在

### 3. 奨学金等

優秀な学生に対しては、1年次から奨学金として月額5万円を2年間支給します。3年目以降は、2年次秋学期から実施する QE 審査の結果に応じて、3年次以降の支給額を決定します。※奨学金については、毎年度支給可否の判断をします

また、1・2年次は TA(Teaching Assistant)、3年次以降は RA (Research Assistant) として活動することは可能です。さらに企業との共同研究を進める中で、研究費等を受給することができます。加えて、その他の奨学金・研究助成と組み合わせることが可能です。

なお、プログラム以外から給与(日本学術振興会特別研究員等)や国費奨学金等を受給している場合は、本プログラムの奨学金を受給することはできません。

1年次の奨学金受給の可否は、プログラム受講生の選考時にあわせて行います。

### 4. 費用

プログラムに参加するための費用は不要です。ただし、海外留学や学外における実習等においては別途費用が必要です。

### 5. 定員

12名

(第1期、第2期で募集する。)

第1期においては補欠合格者も選考し、第2期の合格者発表時に正式に可否を明示する)

### 6. 応募資格

(a) 以下の研究科の博士課程前期課程もしくは博士課程(一貫制)に、2018年9月入学の入試に合格した者、あるいは2019年4月入学の入試に合格した者

スポーツ健康科学研究科、情報理工学研究科、理工学研究科、生命科学研究科、経済学研究科、文学研究科、先端総合学術研究科、テクノロジー・マネジメント研究科、経営学研究科

\*国籍は問いません。ただし、科目開講は日本語で行います。

(b) 前期課程、後期課程の5年間を通して学ぶ強い意志を有すること。

※5年間の途中でプログラムを辞退することは、原則認めません(本プログラムの奨学金を受給した者は返還を求める場合があります。)。また、途中からプログラムに参加することはできません。

(c) 将来、アクティブライフ研究分野をはじめ、産業界、行政機関等で活躍したいという動機、意欲を有すること。

## 7. 応募方法

### (1) 応募期間など

[応募期間]

・第2期：12月10日（月）～12月21日（金）、2月25日（月）～3月8日（金） ※

[提出方法] 学内学生：窓口提出

学外学生：郵送

[提出先] 学内学生：所属学部があるキャンパスの学びステーション

学外学生：〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学 大学院課

※窓口提出の場合は窓口の開室時間内、郵送の場合は応募期間内の郵便局の消印で書類を受け取ります。

### (2) 提出書類

#### ①エントリーシート（所定様式）

下記ホームページより、ファイルを手入の上、作成してください（指導教員の押印が必要）。

**【立命館大学 超創人財育成プログラム ホームページ】**

超創人財 プログラム 検索

#### ②TOEIC®L&R または TOEFL iBT® テスト スコアのコピー（募集開始日から2年以内に取得したものに限り）

\*TOEIC®L&R テスト（IP）、TOEFL ITP®テストも可とする。

#### ③学部 成績証明書 原本（応募時の直前のセメスターのもの）

### (3) 選考方法

応募期間ごとに、書類審査および面接を行い、受講生を決定します。

[面接日]

第2期：3月17日（日）

\*日時については、各募集期間終了後に、応募者に連絡します。

## 8. 選考結果発表

選考結果の発表については、以下の通りです。合否について、学内学生は manaba+R のお知らせ、学外学生はエントリーシート記載のメールアドレス宛に通知します。

[第2期] 3月25日（月） 13時

## 9. プログラム受講手続き

プログラムの受講許可（合格）となった学生は、期日までに手続きを行う必要があります。

\*詳細については、「8. 選考結果発表」のタイミングで連絡します。

以上

## Q & A

Q1：所属研究科の学修と本プログラムの学修は両立できますか。

A1：両立するためには計画的に学修を進める力量が求められます。しかし、プログラム受講生は自身の専門分野だけでなく、他分野の学生とともに学ぶことにより、新たな視野が広がり、研究の幅の拡大につながります。また、企業や機関等との深いつながりを通じて、新たな共同研究や将来のキャリアに発展させることができます。

Q2：博士課程前期課程2回生の時点からプログラムに参加することはできますか。

A2：5年一貫制のプログラムであるため、途中から参加することはできません。

ただし、社会人については、2021年度より博士課程後期課程の合格者を対象として、超創人財プログラムの3年次から履修ができるような制度を設ける予定です。詳細については2021年度の本プログラム募集時にお尋ねください。

Q3：このプログラムの授業はいつ開講されますか。

A3：講義科目・演習科目・実習科目については、平日に加えて、土曜日や長期休暇中に開講します。また、複数のキャンパスに所属する学生が受講することから、今後、遠隔授業やビデオオンデマンド（VOD）により開講する科目を予定しています。

「短期海外留学Ⅰ・Ⅱ」については、長期休暇を利用して行います。

Q4：所属研究科とプログラムの関係を踏まえて、研究活動をどのように進めることになりますか。

A4：所属研究科の研究を主軸とし、多様な学びにより視野を広げながらその研究がどのようにアクティブライフ社会の創造のために社会実装をすることが研究活動のコンセプトとなります。プログラム受講生に対して、「所属研究科の指導教員」、「学外メンター教員」と「研究科コーディネーター教員」の3名による「トライアングル・フォスター指導」を行い、所属研究科とプログラム間の学修をサポートします。

Q5：修士論文や博士論文のほかに、このプログラムを修了するためには、別の論文を執筆する必要がありますか。

A5：修士論文や博士論文に、アクティブライフ分野に関する内容が含まれていれば、別の論文を執筆する必要はありません。5年間で国際学会2回の発表（査読付き）と、国際論文の掲載1報（査読付き）もしくはそれに準ずる成果（表彰・受賞、特許出願など）をあげる必要があります。

Q6：奨学金がもらえない場合もありますか。

A6：この奨学金は、学業が優秀であり、かつ熱心に本プログラムに取り組んでいる学生に対して受給するものです。そのため、QEで定める基準に満たない場合は、奨学金を受給できない場合もあります。

Q7：TA、RAとして勤務することはできますか。

A7：TA、RAとして勤務することができます。TAは、他の学生に教えながら、自身の学びを深めることにもつながることから、本プログラムを進める上でも、重要であると考えています。

Q8：選考の面接では、どのようなことを聞かれますか。提出する学部成績は選考に関係しますか。

A8：面接では、エントリーシートに基づき、志望理由、専門分野と本プログラムとの関係、将来ビジョン等について確認します。学部時代の成績は、主に奨学金受給にあたっての判断材料とする予定です。

Q9：5年一貫のプログラムということですが、研究科の後期課程に入学する必要がありますか。

A9：本プログラムを受講するためには、参画する研究科の課程に所属し、博士学位の取得を目指すことが前提となります。博士課程前期課程（標準修業年限2年）と後期課程（同3年間）に分かれている研究科の場合は、前期課程を修了した後、後期課程を受験、入学する必要があります。

Q10：プログラム修了後の進路をどのようにイメージしたらいいですか。

A10：このプログラムの特色のひとつは、これまで本学が培ってきた研究面を中心とした「産学連携」を発展させて、教育と研究の両面で展開する「産学融合」です。そのために、企業・機関・団体等が参加する「アクティブライフ文化超創コンソーシアム」を形成し、プログラムで展開する科目等への協力や共同研究を推進します。プログラム受講生のみなさんは、日常的に企業・機関・団体等との関係を深め、共同研究から就職へと進展するケースも想定しています。また、プログラムを通じて培った力を活かして、起業することも考えられます。

Q11：企業等との共同研究をどのように進めることができますか。

A11：このプログラムに協力する企業から選出された「学外メンター教員」と月1回のゼミを行い、研究の方向性や研究の進め方を確認するなかで、共同研究に発展することを目指します。その他、所属研究科の指導教員と企業等と進める共同研究の一員として参加するケースもあります。

Q12：どのような企業がプログラムに関わっていますか。

A12：連携企業（抜粋）については以下の通りです。

アシックスジャパン、アクロホールディングス、イシダ、大成建設、オムロンヘルスケア、共立メンテナンス、協和エクシオ、クレディセゾン、シーメンスヘルスケア、損害保険ジャパン日本興亜・タカラバイオ、東洋紡、NTT西日本、ニプロ、日本信号、日本ベンチャーキャピタル、野村證券、博報堂、三井住友銀行、山科精器、ライフネット生命保険、ルネサンス、草津総合病院、JCHO 滋賀病院、近畿健康管理センター など（2018年11月現在）

**※年度により研究科は異なります。**

## **5年一貫博士「超創人財育成プログラム」の概要**

### **1. プログラム内容（5年一貫）**

所属研究科の学修に加え、超創人財育成プログラムの学修をする5年一貫制のプログラムです。修了後は所属研究科で取得をした博士学位記にプログラム修了の旨を付記します。

# プログラムの内容

## アクティブライフ社会を超創する人財育成

インフラ関連企業・総合商社におけるアクティブライフ推進人財\*

シンクタンクの未来予測人財\*



ウェアラブルデバイスによる活動計測と予防診断等、健康維持サービス技術開発人財\*

新たなアクティブライフ学術領域の開拓人財\*



ICTを活用した遠隔検診・医療等、ヘルスケアシステム開発のアントレプレナー人財\*



グローバルヘルスケアの行政人財\*



地域ケア制度の設計人財\*

新しい医療保険の開発等、健康ビッグデータ解析に基づく医療保険サービス開発人財\*



\*想定している人財例

### アクティブライフ研究領域教育

- ・ヘルスサイエンス
- ・健康ビジネス論
- ・健康政策・施策論
- ・データサイエンス特論
- ・AIと機械学習特論
- ・ヘルスケアシステム開発
- ・滋賀医科大学の医学系提供科目

講義科目はいつでも繰り返し学習できるVODシステムを導入

健康 ICT 医療

講義と実習・演習科目でアクティブライフの基礎と実践力を習得

11研究科提供  
アクティブライフ  
関連

卓越大学院  
サーティフィケーション

博士号

独創力 俯瞰力  
専門性



産学融合による  
院生主体の共同研究



指導教員 学外メンター

コーディネータ  
トライアングルフォスター教育体制

選抜



### 社会実装教育

- ・エグゼクティブレクチャー
- ・プロジェクトマネジメント
- ・課題解決型長期実務実習
- ・新事業開発
- ・イノベティブ・アントレプレナー実習

### 異分野融合

- ・異分野・異世代セミナー

### グローバル

- ・国際セミナー・ワークショップ
- ・短期海外留学Ⅰ、Ⅱ

企業 英語 異分野  
連携 能力 融合

社会の多様性を柔軟に対応できる力を習得

2・4・5年次の  
Qualifying  
Examination

## 立命館大学大学院11研究科 + 滋賀医科大学大学院

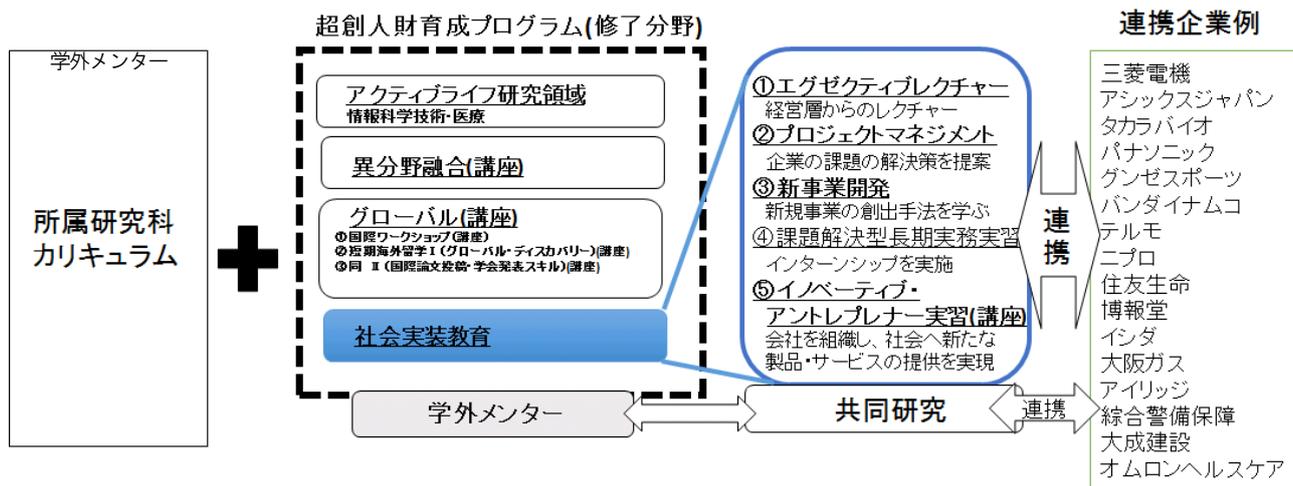
スポーツ健康科学研究科, 情報理工学研究科, 理工学研究科, 生命科学研究所, 薬学研究科, 経済学研究科, 文学研究科, 先端総合学術研究科, テクノロジー・マネジメント研究科, 人間科学研究科, 経営学研究科

医学系研究科

(医学大学院は2年次から編入)

(社会人は3年次で編入)

## 2. 5年間の学びのイメージ



1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
●企業メンター 多様性 創造力	●プロジェクトマネジメント ●海外実習 問題発見 問題解決力	●イノベーションコンテスト ●企業実習(インターンシップ) 柔軟性	●海外演習 グローバル力 コミュニケーション力	●イノベティブアントレプレナー実習(企業運営実習) 実行力
企業から学び、企業とともに研究する(超創人材育成プログラムでの学び)				
所属研究科	修士論文 思考力	研究力・思考力を深める(所属研究科での学び)		博士論文 専門性

### 3. 経済的支援モデル

※1 受給の有無、金額については個人によって異なります。

奨学金	1・2年次	月額5万円
	3～5年次	QE 審査の結果に応じて、支給額を決定 ※1

TA(Teaching Assistant)・RA (Research Assistant) の給与 ※1

企業からの共同研究費の獲得 ※1

- 【大学院生のための奨学金・研究助成制度】 ※1
- 1・2年次成績優秀者奨学金 (5～25万円 \*研究科による)
  - 国際的研究活動促進研究費 (10～30万円) ○博士論文出版助成制度 (100万円)
  - 国内研究活動促進研究費 (5～20日まで: 5万円、21日以上: 10万円)
  - 研究実践活動補助金 (国内: 1.5～3万円、国外: 2～20万円)
  - 英語論文投稿支援 (3・5万円) ○ベーススキル向上支援補助制度
  - インターンシップ奨学金 (15日～: 10万円、31日～: 15万円、60日以上: 20万円)
  - 学会発表補助 (1・3・10万円) 国外共同研究奨学金 (20～80万円)
  - 学生研究会活動支援制度 (1研究会につき年額上限10万円)